

にっち音声工房 『魔神召喚』

・ Chapter1 「召喚 ショウカン」

…われを呼ぶのは、何者か。

…ほう。このわれを実体化させたか。

貧弱な小男に見えるが、なかなか強い魔力を秘めておるようじゃ。

人の世に現れるのは、およそ八十年ぶりか…。

外の景色もずいぶんと様変わりしたようじゃのう。

…なんだ、恐れておるのか。

自らの欲望のために、われを召喚したのであろう？

震えておらずに、お主の望みを申してみろ。

…ふうむ。その大きな魔力は、童貞をこじらせたがゆえのものであったか…。

このわれを、そのような程度の低い願望を満たすために呼び寄せるとは…。

わが力を行使すれば、この世に大きな混乱と災いをもたらすこともできるというのに…。

…まあよい。どのみち、契約のためにお主の血肉は必要だったのじゃ。

血の代わりに、お主の精をいただくとしよう。

…お主の望みは承知した。

…そうじゃ。われが、お主の童貞を奪ってやる。

これまで生きてきて1度も女を抱いたことのないお主に、このわれが、望み通り、人間の女相手では成し得ない極上の交尾をさせてやろう。

…さあ。契約の時じゃ。

衣を脱ぎ捨て、わが前に跪くがよい。

…願望成就の代償として、われはお主の魂を貰い受ける。

さあ、お主の名を、われに捧げよ…！

・チャプター2 「契約 ケイヤク 〜魔神の淫口大量射精儀式〜」

われとお主の魂を結びつけるため、まずはお主の血肉をいただくとしよう。
なに、ちょいと精を抜き取るだけじゃ。

本来は血液を触媒として捧げるのであるが、帯びた魔力に違いはない。
代わりにお主の精液を搾り取ってやろうというのじゃ。

…それがお主の望みであろう？
女に見向きもされなかったお主のソレを、われが心地よくさせてやる。
さあ、見せよ。腰を突き出して、お主の粗末なモノを、わが眼前に差し出すがよい。

…ふっ。
貧相な肉体に似合いの、ひよろっこい男根じゃ。

しかし、まだ何もしておらぬというのに、なんじゃ、その反り返りようは。
まこと、女に飢えておったのであるな。
なんとも哀れな男よ…。

…これ。誰が自らを慰めてよいと申した。
われほどの高位悪魔を召喚したのが、このような盛りのついた猿であったとは…。
まったく嘆かわしい。

お主の肉体と精神は、われに捧げられた供物である。

勝手な真似ができぬよう、しばらく体の制御を奪わせてもらうぞ。

なに、心配するな。お主にはすぐに至上の快楽を味あわせてやる。

…すでにお主の肉体はわれの支配下にある。これで余計な身動きはとれまい。

…束縛されるだけではなく、…ほれ、どうだ？ 目に見えぬ力で宙づりにされるのは。

わが結界の中では、重力さえも思うがまま。

いくらお主のイチモツの世話をしてやると申しても、このわれが、ヒトのオスごときに跪くわけにはいかぬからのう。

ならば、お主のモノをわが眼前まで持ち上げるほかあるまい？

…われの目の前に無様な姿を晒しておるというのに、お主のイチモツは先ほど以上に張り詰めてきておるぞ？

それだけ勃起しておきながら、丈も太さも、まったく貧弱としか申せなんだ。

しかも、なんじゃ。その、皮の被った汚らしい包茎亀頭は。

ここまでみすばらしく、不潔極まりない男根の持ち主が、よくもまあ、われに相手をせよなどと申すことができたものじゃのう。

まったく、身の程を知らぬ愚かな男よ。

…フッ、フッフッフ。

嘲りの言葉を受けてなお、お主のソレはビクンビクンとみっともなく跳ねておるわ。

皮被りの先端から、汚い汁が滴り落ちてきたぞ。

んん、んふー。クサイのう。なんというニオイじゃ。

これは包茎マラの、亀頭と皮の間に溜まったカスのニオイか…。

まさか、これをわれに掃除させるつもりだったのか？

お主のその、女に見向きもされなかった貧相なペニスに、べったりとこびりついた童貞カスを。

…ふうむ。われもどうしようもない馬鹿者のところに召喚されたものじゃ。

…いたしかたない。お主が捧げる魔力と魂に免じて、望みは叶えてやろう。

…それにしても、まこと凄まじい臭気。んふー、すうう。

んはあ。お主のモノが近づくにつれ、われの鼻が曲がりそうじゃぞ。

…われの鼻先に、けがれたチンポを突き付けて、より一層、興奮しておるな。

貧相な竿の上で、血管だけは立派に浮き上がって、ドクンドクンと脈打っておる。

これでは、いつ暴発しても不思議ではないのう。

…では、まいるぞ、んへえあ、えろおん。

ええ、んへえ、えろん、ええろん。んちゅう、ちゅ、んへえええろ、えろん。

んぶ、えろ、ちゅる、んちゅる。じゅちゅ、んへえあ、えるえる、んへえろ。

んへえあ、んお、なんと、クサイ…。

エグミのある、濃厚な熟成チンカスを、大量に溜め込みおって…。

んえろ、んへえろ、えむ、んむ、くっちゃ、くっちゃ。

ああむ、んむ、んええあ、ええろん、えるえる、えへえろ。

じゆる、んじゆるる、えへえる、えろえろ、じゅちゅ、ちゆる、ぶちゆるん。

んへえ、んちゆる、くっちゃ、くっちゃ、んちゆる。

節操なく垂れ流す先走り汁と混じり合って、なんともいえぬ味わいじゃな。

んへえむ、んへろ、えろえろ、んじゅちゆる、ぶちゆる、んへえあ、ええろん、えるえる、えろお。

ええむ、んえろ、ちゅぶ、むちゅ、ちゅちゅ、ちゅえろ、えへえろ、えるん、えるえろ、んへえええろ。

んへえ、んん、どうした？ ずいぶんと苦しそうではないか？

チンカスマミれの童貞チンポを、このわれが、口で弄んでやっておるのじゃ。

もっと気持ちよさそうにしてもよかろう？

…ふっ。

射精できないのが、そんなに辛いのか？

…そうであろうな。本来ならば、とうにお主は果てておるはず。

しかし、申したであろう。お主の肉体はわれの支配下にあるのじゃ。

勝手に絶頂を迎えることは許されぬ。

お主のチンポは魔神のフェラチオで骨抜きになるまでしゃぶりつくされ、限界の限界まで快感を高めさせられるのじゃ。

その方が上な魔力と生命力を帯びた精液を搾り取ることができるからのう。

泣いても喚いても無駄じゃ。お主が望んだことであろう？

しっかりとわれの口の感触を堪能し、快楽の果てで射精するがよい。

フフフ。お主の低俗な願いに付き合っているのじゃ。

覚悟を決めて、そのチンポの快楽に身を委ねよ。

ほれ、またしゃぶるぞ？ お主の粗チンを、われの口で、んええあ、しゃぶり、つくして、やる、んええあむ。

んむ、あむ、んへえあ、えあむ。むちゅ、んあ、ええろ。ずちゅ、ちゅる、んむむ。

んぶ、ぶちゅ、ちゅぶぶ、んへ、あむ、んああむ。

んちゅ、ちゅる、ずちゅる、ちゅぶ、ぶぶ、んぶぼ、ぶちゅ、じゅる、ずちゅる。

「これから、われの魔力をお主の肉体に流し込む」 （脳内に直接話しかける）

「このような粗末なチンポを、われの中に向かい入れる訳にはいかぬからのう」

ずず、ぶちゅ、ぶちゅる、んちゅ、んっちゅう、ちゅぶ、ぶぶ、んばぼ。

んええろ、えろえろ、んじゅちゆる、ちゅぶぼ。ぶちゅ、ちゅちゅ、ちゅぶ、えろ。

えるん、えるん、えるえる、んへえろん。

あええる、えろん、えへえろ、えろえろ、んべろおん。

んへえろ、んべろ、べろべろ、えろおん。ええる、ええる、えへえろ、んべえろ、べろべる、んべろおん。

「どうじゃ？ 感じるか？ お主のチンポから、われの魔力が流れ込んでくるのを」

「今まで以上に、熱くこみ上げてくるものを感じるであろう？」

んちゅ、ちゅぶ、ぶぶ、ぶぼ、ぶばぼ。むっちゅう、ぶちゅ、ちゅう、ちゆる、じゆる、ぶじゆるるる。

ちゅば、ちゅば、ちゅばぼ、ぶちゆるる、ぶっちゅう、ちゅぶ、ぶば、ぶぼぼ、ぶぼっ、ぶぼっ、ぶじゅぼっ。

じゆる、じゅば、じゅぶぼっ、ぶちゆる、ちゆるじゆる、ぶじゆるる、じゅぶ、ずちゆるん。

ちゅば、ずちゅ、じゅちゅ、じゆる、じゆるる、ずちゆるん、ちゅじゅば、ずじゅちゆる、ちゆるじゅぼっ。

「われの力を受け入れよ。そして願うのじゃ」

「この貧相な短小包茎チンポのまま、惨めな童貞喪失を迎えたくはあるまい？」

「…そうだ。どんな女をも屈服させる、力強く雄々しい、極太チンポを望むのじゃ」

んぶっ、んぶぶっ。んへえあ、おお、包茎が、ムケルぞ。

んへえろ、ちゆるれろお、お主のチンポが、大きく、太く、えへえろ、亀頭もカリ高く、成長しているのが、んむ、わかるか？

んちゆる、われの魔力と、えろん、お主の醜い欲望とが、んへえ、お主の肉体を、変化させているのじゃ。

んもお、んへ、ぶもも、あぶ、んぶ、むへえおおう、ぶちゅ、ぶぼ、んぶも、ぶちゅるるん。

んぶう、ぶも、あむ、んぼ、ぶぼぼ、んん、ずず、ずちゅ、ずる、んぶちゅる、じゅずぞ。

ずるる、じゅるれろ、あむ、んぶ、んぶぼつ。

ぶじゅ、じゅる、ずじゅずず、じゅぶ、ぶぼ、んぶぼぼつ。

えおう、んへおう、えぶ、んぶ、ぶじゅれろ、んへえろ、えるえろ。ずぞ、ずず、ずじゅれろ、えろえろ、んへえええろ。

んべえええろ、えろん、べえろ、んべえろ、えるえろ、んべえろん。

れる、れる、えへえろ、えろえろ、べろべろ、んべろ、んべえろ、べろべろ、べろおん。

べえろ、べろべろ、んれろ、れろおん。んへえる、えるえる、んべろおん、べろおおおん。

んへえ、んへえあ、んちゅ、んちゅるん。

えへえろ、んん、くつちや、くちや、えへえ、あむん、んちゅ、ちゅるる。

えへええむ、ずちゅる、じゅる、くちゅ、くちやあ。ずちや、くちや、じゅる、じゅるる。

んえろ、んちゅ、じゅる、ぐちゅ、ぐつちや。くつちや、くつちや、くつちや、くつちや、くちゅる、じゅる。

んへえあ、えむ、ええあむ。んん、んぐ、ごく、ごつく。ごきゅ、ご、きゅう。

…んぶ、んはあああ。

んつぶ、んん、んえ、んげええつぶ。

んん、んえつぶ。んは、ああ、あはあ。

…ふうむ、なんとも気色の悪い喉越しじゃのう。

それに、この、喉から腹からのぼってくる、たまらぬ臭気。

包茎亀頭の周りに溜め込まれた熟成チンカスチーズと、堪え性のない粗チンから垂れ流された先走り汁とで、われの口がすっかり汚染されてしまったぞ。

お主の穢れを、このわれが飲み下してやったのじゃ。

光栄に思え。…んぷ、げぷっ。

…そして、ほおれ、どうじゃ？　これがお主のチンポじゃ。

先程までとは見違えるほどに、逞しく、猛々しく、われを突き刺さんばかりに屹立しておる。

ビクリビクリと大きく痙攣し、涎にまみれてヌラヌラテラテラとずいぶんと卑猥な姿じゃのう。

…ふっ。われの力があれば、肉体を作り変えるなど造作もないこと。

お主の望み通りの、女殺しの凶悪チンポに生まれ変わったであろう。

その卑屈な根性と長年のコンプレックスの裏返しが、このそそり勃つ剛直というわけじゃ。

…では、仕上げと参ろう。

魔神のフェラチオが与えし至上の快楽により、その極太強化童貞ペニスから、大量の契約射精をするがよい。

さすれば、わが力はお主のものとなろう。

…さあ、ゆくぞ。

えへええあむ、んも、んぶ、あんむ。

んぶ、ぬぶっ、ぶちゅっ、んぼんっちゅうん。

ぶもっ、ぶぼっ、じゅぶっ、じゅぼっ。ぶずりゅ、じゅぶば、ぶぼっ、ぶぼっ、んぶぼっ。

ずるずる、じゅるる、じゅぶじゅぼ、じゅぶばぼっ。

ぶじゅる、じゅぶぶば、んふ、ずちゅ、じゅる、じゅぶぶっ。

じゅぶっ、じゅぼっ、じゅぶぼっ、じゅっぶ、じゅっぶ、じゅっぶ、じゅっぶ、ぶぼっ、ぶぼっ、ぶぼぼっ。

ぶっば、ぶっば、ぶっば、ぶっば。

じゅるれろ、ずぞぞ、じゅぼっ、じゅぼっ、じゅぶっ、じゅるる。えろん、んべろん、んべえええろん。

ええる、んべろん、えるえる、べろおん。じゅる、ずる、ずちゅる、じゅるえろ、じゅぶべろおう。

ねろん、んへろん、ええろ、ええろ、じゅる、えろん。

ねえろ、んれえろ、れろれろ、えへえええろん。んへえろ、えろえろ、んべえろ、べろん。

んべえええろ、べろべろ、えへえろん。れろれろべろべろ、れろん、んべろん、べえろん、べえろん、じゅるべえろん。

んはあむ、んぶぶ、んじゅ、じゅる、じゅぼ、じゅぶ、ぶっちゅう、ぶちゅう。

じゅぶぼっ、じゅぶぶぼっ、んぶっ、んぼっ、ぶちゅるる、ずぞぞっ。

ぶじゅるる、じゅぶれろ、ずろろ、ずろろろ。じゅぼぼ、じゅぼぼぼ、ずるじゅぶ、じゅぶばぼっ。

じゅぞっ、ずぞぞっ、ぶじゅるる、んぼっ、じゅばぼっ。ずず、ずる、じゅぼぼっ。

んっぼ、んっぼ、んっぼ、んっぼ、ぶぼ、ぶぼ、じゅばば、じゅず、ずぼ、ぶぼぼぼっ。

んぶっ、ぶぶ、んぶぶっ、じゅっば、じゅっば、ぶじゅるる、じゅぶばぼっ。

「…そろそろ限界のようじゃな。よい。われが射精を許可する」

「さあ、出せ。射精しろ。わが喉の奥にチンポを突き入れ、存分に精を吐き出すがよい」

ぶぼっ、ぶぼっ、ぶぼっ、ぶぼっ、ぶぼっ、ぶぼっ、ぶぼっ、ぶぼぼぼっ。

ぶっぼ、ぶっぼ、ぶっぼ、ぶっぼ。ぶじゅぶぼ、ずるる、じゅぶっ、じゅぼっ、じゅぼぼぼぼっ。

んぶっ、んん、んぶぶっ！

んんん、んぶっ、ぶもっ、んぶもっ！ んぶうっ、んぶっ、んんんんん！

…んふう、んふう、んふう、んふううう。

…んぶ、んん、じゅうつぽん。

んん、んちゅ、んへえええあ。

ええあ、んへえあ、んちゅ、にちや、くちやあ。

にちゅ、くちゅ、んちゅる。じゅる、んへ、じゅるるん。

えへえあ、くちやあ、ずちゅ、にちゅ、くちやあ。

につちや、くつちや、くつちや、くつちや。

ええろん、ちゅるる、えへえろん、じゅずるる。

ええむ、ぐちゅ、んちゅ、くちゅくちゅ、くちゅ、くちゅ。

ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ。

くちゅ、じゅる、じゅるる、ぐっちゅ、ぐっちゅ、じゅるん、ずちゅるん。

くちゅくちゅ、くちゅくちゅ、くちゅくちゅくちゅくちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ、ぐっちゅ。

…んん、んぶ、ごく、ごきゅっ。ごきゅっ、ごきゅっ、んん、んごつくん。

…んぷ、んっはあん。んん、ぺろ、ぺろり。

はあ、はあ、ぺろ、これが、お主の魔力の、生命の、味か…。

粘着くような暗い欲望と、ふつふつと煮えたぎるような破滅への願望…。

悪魔に捧げるに相応しい、禍々しい射精であったぞ。…んぷっ。

ツブツブとした精子ゼリーが、んん、喉に絡みついて、んふう、イカくっさい匂いが上がってくるぞ。

ドロドロネバネバの、タマキン汁が、んっくく、胃の腑に染みるのう。

魔神のおしゃぶりで排泄させられた凝縮童貞汁を、ゴクゴクと一気にザー飲みし、幾億匹ものオタマジacksonを踊り食いしたのじゃ。

フェラチオの快感を初めて知った精子どもが、われの腹の中で喜びの声を上げておるわい。

…んぷ、んん、げええっぷ。んぶ、げぶうっ。

…なにを呆けておる。

これで契約は成った。お主の精神と肉体が、わが魔力に焼きつくされるその時まで、われはお主の守護者となろう。

…しかし、お主を少々見くびっておったかもしれぬ。

体にみなぎる力を感じるであろう？

ひとの身で、われの魔力をここまで引き出す者は、そうそうおらぬ。

これも、童貞喪失にかけるお主の怨念めいた欲望の賜物か。

お主の望みはすでに承知しておるが、この力をいかように使うかは、今後のお主しだい。

小さな国のひとつやふたつ、お主の元へひれ伏させることも不可能ではない。

ただし、われを使役するたびに、代償としてその命が削り取られていくということを、ゆめゆめ忘れるな。

…そして、わが名をお主に告げよう。

…われは、アトカーシャ。混沌と虚偽の転輪、アトカーシャである。

わが力の本質は、…いや、お主には興味のない話か。

しかし、愚かなまでに欲望に忠実なお主には、存外、似合いのサーヴァントかもしれぬな、われは。

…それでは、最初の命令を聞こうではないか。

…のう？ わが、マスターよ。

・ Chapter3 「使役 シエキ 〜魔神の騎乗位性交搾精〜」

…わが魔力を手にしてもなお、望みに変わりはないとはのう。まったく、お主の愚かさにはほとんど呆れ果てるわい。

…よい。既に契約は成った。われはお主の望みを成就させるのみ。

覚悟せよ。われとの交尾は、人間の女とは比べ物にならぬぞ。

…といっても、お主は並の女の体すら知らぬのじゃったな。

しかし、これから、われと、このアトカーシャとまぐわうことができるのじゃ。

死したのちもなお、魂が永劫に囚われるほどの、すさまじい快樂をお主に与えてやる。

…われも人間界での肉交尾は数十年ぶりじゃからのう。せいぜい楽しませてくれ。

今、お主の目の前に在るわれは、魔界の本体のごく一部を、ひとの、女の身を模して実体化させた仮初めの姿にすぎぬ。

しかし、いかに強大な魔力を持つわれとて、肉体の感覚にある程度は支配されるものでな。

わが魔力にて強化された極太チンポならば、ともすれば、われを快樂に導くことができるやもしれぬ。

生涯初の交尾でわれを泣かせることができればたいしたものじゃ。

われの肉体をチンポで蹂躪するつもりで励むがよい。

…では、さっそく始めるとするか。

せっかくじゃ。われがお主の上に乗る、精魂尽き果てるまで搾り取ってやる。

いましばらくは、お主の肉体はわれのおもちゃにさせてもらおう。

…ふふふ。体を宙に浮かせたままでは落ち着かぬか？

魔神とまぐわおうというのに、まともは何もありはせぬ。

わが結界の中では、われこそが主。お主はわれの求めるまま、黙って奉仕すればよい。

…ほれ、ここが、われのホトじゃ。

首から上は自由に動けるようにしてやるから、その口でわれのココをほぐすのじゃ。

…どうじゃ？ 初めて目にする、女の印は？ あらゆる男を虜にする、魔性のマンコであるぞ。

…悪魔召喚などと、随分と大それたことをしておきながら、所詮は童貞。

マンコとの初対面で、言葉も出ぬか。

これ、いつまで観察しておるのじゃ。早う奉仕せぬか。

われの閉ざされた門を、お主の舌でこじ開けてみせよ。

そうじゃ、舌先をグイッと伸ばし、われに触れよ。

われの女陰にそって舌を這わせ、お主の唾液で潤すのじゃ。

…ふふふふ。夢中で舌をベロベロと。まるで頭の悪い犬のようじゃな。

んんっ。そうじゃ、舌で丹念に、われのマンコの入り口を舐めほぐせ。

ん、んむ。…ほれ、ヨダレまみれのわれの女陰が、かすかに開いてきたであろう？

オスにペロペロと舐め回されて、われの肉体も、メスとしての反応を抑えきれなくなってきた証拠じゃ。

…どうした？ そのように鼻を引くつかせて。

…そうじゃ。これが女の匂いじゃ。

お主の舌で開きかけた女の扉から、男を惹きつける女の匂いが漏れてきたのじゃ。

もっと嗅いでもよいのじゃぞ？ そのまま鼻先を押し付けて、好きなだけ嗅げばよい。

ふむ、われの匂いが気に入ったようじゃな。

マンコの匂いに興奮して、お主のチンポも勃起してきおったわ。

先ほどあれだけ吸いだしてやったと申すに、節操のない童貞チンポじゃわい。

しかし、まずはわれをその気にさせるのが先決。

それまでお主のチンポはわれの尾で可愛がってやる。

ともかく、お主は舌を動かすのに集中するのじゃ。

それ、シュルシュルとわれの尾が伸び、お主の肉棒に絡みつくぞ。

勃起チンポに巻き付き、締め付けて、ほおれ。

…どうじゃ？ 魔神の尻尾の感触は。

われの尾は体温の通わぬ冷血なムチのようであろう。

しかし、お主の勃起熱は奪えぬようじゃの。

ビクビクと太い血管に血液を送り続けられ、萎える様子もない。

ほれほれ、チンポにばかり気をとられておらず、われのココを早う潤せ。

このわれが、お主ごとき人間の酔狂に付き合っやっておるのじゃ。

われの気が変わらぬうちに事を為さねば、お主はこのまま童貞として死ぬことになるのじゃぞ？

…んむ、んあ、んんむ、んふ。

…途端に従順になりおって。

まあよい。そのまま、われを心地よくさせてみよ。

…んん、そうじゃ、しっかり味わうように、われの陰裂に舌を上下に這わすのじゃ。

んん、んふ。おお、そろそろ、われの秘芯からも女のツユが溢れそうだぞ。

…見ておれ、われの女陰が開くのを。

んん、んお、お、おおお。

ほれ、われのココを見よ。マンコの割れ目がゆっくりと、んふ、開いてゆくであろう？

…これが、われの、魔神のマンコじゃ。

ぽったりとした肉ビラが、ヒクヒクと震えるその奥に、トプンと愛液をたくわえた肉壺が見えるであろう？

お主の、童貞のベロ奉仕で、われの肉体の、女の部分が目覚めさせられたのじゃ。

こぼれ落ちそうな甘露は、お主の舌で感じさせられ、メスの穴が肉棒を咥え込む準備を始めた印である。

また、舐めてもよいのじゃぞ？

この、われの肉穴から溢れてくるツユを、味わってもよいのじゃぞ？

んん、んふう。おお、そうじゃ。

遠慮なく、ベロベロベロベロ、われのマン汁を舐めとるのじゃ。

ん、んむう。んあ、んふ、んふう。

だんだんと手慣れてきたではないか。お主、なかなか筋がよいのう。

うむ、そう、そうじゃ。

ビラビラをほぐすように、丁寧に、しかし、力強く。

外陰部への刺激で愛液が溢れてきたならば、んふ、マンコに思い切りむしゃぶりついて、飲み干すのじゃ。

体液というものは、んふう、いちばんの魔力の触媒であるからのう。

んん、われの魔力を潤沢に帯びたオマンコ汁じゃ。
取り込むほどに、お主の精力も増してゆくであろう。

…次は、舌先を尖らせて、この愛液の源泉を、われのマンコの穴をつついてみせよ。
遠慮はいらぬ。魔神のメス穴の中を、直に攻めるのじゃ。

ん、んふう。ふう、んあ、んん、んふう。
んん、んむう。おお、魔神のマン穴が、人間風情の舌で犯されておる。
しかし、んふう、まだまだ足りぬのう。もっと舌の先に意識を集中させぬか。

もっとじゃ、もっと。
われの中を、秘められた魔神のメス穴の中を、もっと開拓してみせよ。

お主の舌は、蛇じゃ。
蛇のように、するりと、ずるりと、われの中に攻め入ってまいれ。
魔力を制御し、われの膣内を貪る蛇を想像せよ。

…んむう、んん、んふ、んあ、ん、んおお。
シュルシュルと舌先が伸び、われの膣を分け入ってきおった。
んん、んむ、そうじゃ。それでよい。

契約成就の時から、お主も半ば魔の者と化しておる。

われと共有する魔力を用いれば、お主の意思でその肉体を変化・強化させることもできよう。
われと共に悦楽の境地に至りたくば、ひとの身を捨てる覚悟で、その力、使いこなしてみせよ。

んん、んむう。蛇舌が伸び縮みしながら、ズルズルと膣壁を這い回る。んふう、ん、んん、んはっ。
んん、んおお、マンヒダを搔き分け、奥へ奥へと侵入してくる。
むふう、よいぞ。お主のペロ奉仕で、われのマンコも感じてきおったわ。

…お主のチンポも、先ほど以上にガチガチに硬く、力強く脈動しておるわい。
魔神マンコの覚醒を待ち望み、これほどまでに興奮勃起しておる。
われの尻尾コキにも負けず、燃えるよう昂ぶっておるわい。

じゃが、見るがよい。われの尾は巻きつくだけが能ではないぞ。

…ほれ、尻尾の先がぷっくりと膨れ上がって、んん、亀裂が入っていくであろう？
その亀裂がゆっくりと開き、んふう、尾の内部に向かって、肉の穴を作り出すのじゃ。

…ほれ、ヌラヌラとヒクヒクと、濡れてうごめくヒダを備えた肉穴じゃ。
ココで、この穴で、お主のチンポを咥え込んでやる。

肉体変化が可能なのはお主だけではない。
高位悪魔であれば、これしきは造作もないこと。

ふふふふ。では、尻尾マンコで、お主のチンポを喰らってやろう。
ここからは容赦なく、金玉の中身を搾り取るつもりで参るからのう。
筆下ろしまでに精子を無駄打ちしたくなければ、せいぜい我慢することじゃ。

…どうじゃ？ われの偽マンコの中は？
気を抜いておるとすぐに射精してしまうぞ。
ほれほれ、尻尾フェラでジュボジュボと、お主のチンポを可愛がってやるぞ。

んん、んふう。んむ、んお、おおお。
対抗するようにクンニ、魔神マンコをクンニするとは。
われに畏怖し、震えつつも、男としては負けられぬと、精一杯の抵抗を試みるか。

…ふふふふ、面白い。では、参れ。
魔神のマンコを、お主の舌技でもっと感じさせてみよ。

んくう、んんん、んふ、んは、あふう。
んん、んむ、んく、んむう。んは、んく、んん、んは、あつくう。
んあ、ああ、んん、んく、んふう。んん、んんん、んく、んあ、んお、お、おおおお。

んはあ、んん、んおお。人間風情のクンニリングスで、このわれが、んくう、感じさせられておる。
お主の肉欲の炎にあぶられて、魔神のメスマンコが、ん、んんん、発情するぞ。

んっふふふふ。

んはあ、芽吹く、芽吹くぞ。

われの陰核が、芽を、出す、ぞお。

んく、んんん、んは、あふ、んふうううつ。

んん、ああ、あっはあああ。

んおお、どうじゃ？ われの陰核は、どうなっておる？

…ふふふふ。そうじゃな。勃起、してしまっておるわい。

われの勃起クリトリスは、いかがかのう？

包皮を押しわけ、親指ほどに肥大化し、ピンとそそり立っておるであろう？

…ほうほう。まるでチンポの様か。

そうなのじゃ。われの陰核は、このようにメスチンポのごとく、大きく卑猥に膨れ上がるのじゃ。

それで、これをお主は、いかにして可愛がってくれるかのう？

…んん、んくう。まずは、そうじゃの。舌でねぶって、唾液と愛液を塗りつける。

ん、んっは、肉の芽を、ツツツっと、ベロ先でなぞって、んふう、おお、それはなかなか心地がよいぞ。

そして、んふ、クリチンポを、その口で、んほお、そう、そうじゃ。

われの勃起クリトリス、オスのフェラチオで、可愛がって、みせよ、んん、んくう。

魔神の肉芽が、人間の、男の口で、んっふう、おしゃぶり、おしゃぶりされておる。

オスフェラ、ジュポジュポ、オサネをおしゃぶり。んおお、これは、これはなかなか…！

尻尾のチンポしゃぶりに耐えながらも、んふ、われにここまでの快楽を与えるとは。

んん、んっくう、ヨダレをたっぷり溜め込んだ口内で、自由に伸縮する舌が、われの陰核チンポに巻きつき、締め付ける。

われの尾の動きを学び、蛇舌クンニに取り入れたか。

この短時間で、そこまで変化した肉体の制御をものにするとはのう。

んっふう、んん、んは、ああ、はあ、んおお。

それじゃ、それじゃ、その調子じゃ。

お主の陰核おフェラチオ、われの芯に、火を点けようとしておる。

んむう、んは、おお、んおお。

メスの肉体の発情につられて、われの魂さえも、欲情してきておるわい。

んんふ、んおお、おお、んおおおお。

お主のチンポも、ビクンビクンと震えておるぞ？

もう限界なのか？ 尻尾マンコの中で今にも精を吐き出しそうじゃのう。

…んん、んふう。

…そろそろ、で、あるな。そろそろ、童貞喪失といこうではないか。

お主も、このまま尾の中で果てるより、われの、魔神の本物マンコで射精したいであろう？

…そうであろう？ われのココで、お主の童貞を捨て、その宿願を叶えるがよい。

魔神の発情ヌレヌレオマンコに、童貞勃起チンポ肉を、ズップリと奥までハメ込んで、存分に金玉汁を注いでみせよ。

お主の劣情にあてられて、われのマンコもすっかり肥大化してしまったわい。

ほれ、外陰唇のビラビラなんぞ、下品にだらしなく伸びきって、大きく外にはみ出さんばかりじゃ。

その奥の膣口も、グニャグニャと獲物を求めて、別の生物のようにいやらしく蠢いておるであろう？

ここまで淫猥な形状に変化するとは、ひさかたぶりの肉情事に、われも存外、興奮しておるらしい。

われのメスとしての興奮と、お主の大それた欲望に呼応し、魔神のマンコがこのように、卑猥にスケベに歪められたのじゃ。

…目は血走り、鼻息は荒く、もう辛抱たまらんといった風じゃのう、お主。

初めての交尾は、われが上に乗ってやる。

お主のギンギン勃起マラは、魔神の腰振り騎乗位交尾で、たつぷりと搾り取ってみせようぞ。

邪魔するモノも無いわが結界の中で、存分に空中騎乗位セックスを楽しむとよい。

んっふふふふふふ。

ほおれ、ココじゃ。ココにズップリ、魔神のマンコに根元まで、人間オスチンポ、ズップリと咥え込む…。

参るぞ。マンコに、入れるぞ。

んん、われの、魔神アトカーシャのマンコ。

高位悪魔の肉穴に、んふ、人間ごときの低俗チンポが、んうう、入って、まいるぞ。

んん、んく、んむう、んん、んふ、んっはああああ。

…感謝せよ。

お主の、女を知らぬ童貞チンポを、われが男にしてやったのだ。

お主の望みどおり、魔神のメス穴で童貞喪失を、…んむ？ なんじゃ？ そのように腰を震わせて。

んんう、んお、お主、まさか、もう、射精、してしまったのか？

魔神のマンコが心地よすぎて、入れただけで果ててしまったと申すのか…？

んむう、堪え性のないレベル1チンポが、われの中にビュクビュクと精を吐き出しおるわい。

まったく、なんとも不甲斐ない…。

んん、んふう。しかし、この量、この熱さ…。

中出しザーメンの質はなかなかよいらしい。

われの膣内から、お主の魔力が染み込んでくるわい。

…ほれ、落胆しておらずに、またチンポを硬くせい。

まさか、これで終わりではなからう？

お主の尽きぬ欲望は、ドロドロの中出し精子から伝わってまいる。

われのマンコもここからが本番じゃ。

…ほおれ、膣壁のヒダヒダで、んん、チンポをマッサージしてやるからのう。

んふ、んん、んくう。どうしたどうした。はようチンポ、勃起させよ。

ザーメンまみれのまま、グネグネと運動するマンヒダに包まれ、んふ、このチンポをバキバキにせぬか。

われとの契約で、お主の中には既に大きな力が宿っておるはず。

肝心なのはイメージすることじゃ。

女を犯し、支配する力を。雄々しく、猛々しく、女を貫き、征服するツルギを。

お主の中に眠るそれを、はよう引き出すのじゃ。

はようチンポを勃起させ、われの中を満たしてみせよ。

んんん、んっふ、んふ、んんう、んあはあ。

オスの中出し精液と、メスのマンコ汁とで、グチョグチョのドロドロの、われの肉壺で。

人間チンポを、んくう、勃起、させよ。

そおれ、勃起じゃ。勃起させるのじゃ。

んん、んお、勃起い。勃起、勃起、勃起い。

チンポを勃起、チンポを勃起じゃ。

わがマンコでチンポを。チンポを、チンポを、勃起チンポお。

んんう、んつく、んお、おおおお。

…そうじゃ。それでよい。わがマスターたる者、いかなる時も強くあらねばならぬ。

われの女陰を貫きし、このチンポ。魔神の契約者にふさわしい、立派な勃起チンポである。

これでようやく、お主も本物の男じゃ。

お主のチンポとわれのマンコで、まことのセックスを楽しもうではないか。

お主の上で腰を振りまくって、この魔神穴でお主の成長した勃起マラを搾り取ってやる。

次の射精は幾分、長く耐えてみせよ。

…では、参るぞ。

んん、んふ、んは、ふん、ふん、ふん、んく、んはあ。

ふん、ふん、んくう、んん、んく、ふん、ふん、んつふう。

ぬう、んく、ふん、ふん、んんん、んは、んふ、ふんふん、ふん、んはあ。

どうじゃ？ われの腰振りは？

…ふふっ、うごめく肉壺の感触がたまらぬか。

気を抜いては、またすぐにザーメンを吐き出してしまうからのう。

多少はわれのことも楽しませてくれ。

ふん、ふん、ふん、ふん。

ほおれ。これが魔神の騎乗位腰振りじゃ。

ズッコズッコと、われの穴で容赦なくお主の肉棒をシゴキ上げてみせよう。

んっふう、んん、んあ、んく、んふう。

腰を上下に動かしてチンポを抜き差しすると、グッチョグッチョと、童貞初物ザーメンとわれのマンコ汁が交じり合う卑猥な音が響く
のう。

生出しドロドロ子種汁が、われの膣ヒダのすみずみまで塗りたくられて、んくう、なかなかよい心持ちじゃ。

亀頭の先がマンコの奥に当たるたびに、止めどなく蜜が湧き上がってきおるわい。

ううむ、お主の情欲に引きずられ、われの肉体もメスの本能に目覚めつつあるようじゃ。

お主のチンポ熱が内側から伝わって、われのココも、すっかりトロトロの発情メスマンコと化してしまったぞ。

しかし、不思議と悪い気はせぬ。

ときにはこのように、お主のような愚か者と、人間界で肉の快楽を味わうのもよいのかもしれぬのう。

そおら。グチョドロマンコでズップズップと、ケツ振り、ケツ振り、ケツ振りい。

ほおれ、マンコじゃ。ケツ振りマンコじゃ。マンコでチンポを、ズップシと、啜え込むう。

奥までチンポを入れたのならば、すぐに、んふう、亀頭だけ残して、抜き去ってしまおう。
そして、また、んん、マン奥までチンポを、チンポをズブっと、食ろうてやる。

ズップンズップンと、オス肉マラを抜き差しじゃ。
ガチガチチンポ肉、ヌレヌレオマンコでコキまくってやろうぞ。

そおれ、それぞれ。ふんふん、ふんふん。
んん、んふ、ふんふん、ふんふん、ふんふん。
チンポとマンコで、んん、グッチョングッチョンのケツ振り交尾い。

セックス。交尾。まぐわい。オマンコ。
オマンコ、オマンコ、オマンコ、マンコお。

マンコでズップシ、チンポをズップシ。チンポが、んおお、われの中を貫いておる。
われのマンコを。この魔神アトカーシャのマンコを。
人間風情のオチンポが、魔神の発情マンコ穴を、下から串刺しにしておるわい。

んっふふ、ふふふ、ふはははははは。
どうした？ そのように顔を歪めて。

また限界が近いのか？

われの中で、再び射精をしたいのか？

まったく、だらしのないやつじゃ。だらしのないチンポじゃ。
われのオマンコ腰振りに、もう辛抱できぬと申すのか。

ならば、出すがよい。
女の下でヒイヒイよがりながら、みっともなくザーメン発射してみせい。

ザーメン、精液、チンポ汁。
金玉の中のドロドロ精子を、われのマンコに注ぐのじゃ。

そおれ、それぞれ。ふん、ふん、ふん、ふん。
イケ、イケ。出せ、出せ。射精じゃ、射精。

射精、射精、シャセイ。
マンコに射精。チンポで射精。チンポ子種を、中出し、生出し、ドクドク、射精い。

チンポが膨れる。チンポ、出る。チンポが出る出る、チンポ出る。
んん、んおお。んふう、ふう、ふう、んお、お、おおおお。

チンポ、チンポ、チンポ。チンポチンポチンポ。
ザーメン、ザーメン、ザーメン発射。魔神のマンコに、中出しチンポお。

んん、んく、んおお。チンポが、ビュクビュクと種汁をひり出しておるわい。

再びの中出しで、んむう、われの中がザーメンで満たされる…。

われとの契約によって強化されたチンポ射精である。

その濃さも量も、並みの人間とは比較にならぬからのう。

大量特濃童貞ザーメンにて、われのメス穴が、んくう、ドロドロのグチョグチョの、精液タンクになってしまったぞ。

…しかし、まだまだこれからじゃ。

お主の強化金玉は、ヒトの限界を超えて、無尽蔵に精液を作り続ける。

であるから、ほおれ、マン穴をキュッと締め付け、マンヒダでグネグネと奮い立たせてやれば、んん、んく。

…中出しザーメンまみれの肉壺の中で、このオスマラはすぐさま硬く勃起してしまうのじゃ。

呆けておる暇はないぞ。

ほおれ。射精まもない童貞卒業チンポを、ズッコズコと容赦なく腰を上げ下げし、わがマンコ肉で絞り上げる、んんん。

んっふ、んんんん、そおれ、それ。

グッチョグッチョ、ヌッチュヌッチュと、下品な汁音たてながら、騎乗位交尾でヌッコヌッコと。

お主の子種を、ズチュズチュ、ヌコヌコ、搾り取るっ。

そおら。ふん、ふん。フンフン、フンフン、フンフン、フンフン。

悪魔の高速騎乗位で、ズブズブ腰振りマラ搾りで、んん、んお、ほおれ、イケ、イケ、イケえ。

んんっ、んっくう。んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んん、んおおお。
んおっ、出る。精子がまた出る。連続中出しザーメンじゃ。んん、んっくう。

そうじゃ。射精しまくるのじゃ。金玉の中身が空になるまで、精を吐き出し続けるがよい。
お主の金玉から排出された種汁はすべて、われの下の口で飲み干してやる。

んん、んっくう、メスの肉ヒダに、新鮮なタマキン汁が染みるのう。
どっぷりと大量に中出しされ、われの女も反応しておるわい。

ふふふふ。もつとじゃ。もつとわれを感じさせてみせよ。
チンポはまだ勃起できるな？ また魔神のマンコ穴でシゴキあげてやるからのう。

そうじゃ。抜かすの連続交尾じゃ。
われに相手を望んだのじゃ。これぐらいの責め苦で音をあげるでない。
ザーメン中出し連射交尾で、至高の快楽をもたらしてみせようぞ。

そおら、チンポじゃ。チンポ、勃起じゃ。
ガッチガチに、バッキバキに、勃起じゃ、勃起い。
ポッキンキンのたくましいチンポ肉で、われの中をもっとかき混ぜてみせよ。

んん、んっふう。んく、んふ、んむ、んふ、んっふう。

んふう、ふう、ふう、んく、んん、んふう。

ううむ、いいぞ。それでこそ、わが契約者である。

射精を重ねるごとにチンポも成長し、ますます太く、ますます硬く、立派な肉棒となってわれの中を押し広げてまいるぞ。

そろそろ、肉体の戒めは解いてやるからのう。お主も好きに動けばよい。

われのマンコを、下からチンポで突き上げてみせよ。

お主の、男としての、人間としての意地を、われに示すのじゃ。

チンポじゃ、チンポ。チンポで突き上げじゃ。

ほおれ、チンポお。チンポチンポチンポお。

チンポ、チンポ、チンポ、チンポ。チンポ、チンポ、チンポ、チンポ。

チンポ、チンポ、チンポ、チンポ。チンポ、チンポ、チンポ、チンポお。

んむう、チンポで、チンポでマンコを、ズコズコ騎乗位ピストンじゃ。

んお、んく、チンポお。チンポでマンコをほじくれない。

んは、んお、お、お、おお。

なかなかよいぞ、お主の突き上げ。

つい先程まで童貞であったわりには、よくやっておるほうじゃ。

お主のがんばりのおかげで、われのマンコも、んん、感じておるわい。

どれ、われもそろそろ本気で腰を振るとしよう。

魔神の本気マンコに、お主はどれだけ耐えられるかのう？

んんつく、んふう。んふ、んふ、ふん、ふん。

んふ、んお、んむ、んおお。んおっ、おおっ、んん、んお、おっ、おおお。

んおっ、んおっ、んおっ、んおっ、んくっ、んむう、んお、おっ、おふう。

んん、んくう、われの腰振りに、お主も動きを合わせよ。

われが腰を深く下ろすと同時に、んおっ、思い切りチンポを突き込むのじゃ。

んむう、んんつく、んおっ、おおっ、んおおっ。

んつくう、そうじゃ、なかなかよいぞ。

バッチュン、バッチュンと、激しく腰を打ち付けるのじゃ。

んん、んお、んおお。

これじゃ、これじゃ。これこそがセックス。肉の契り、肉の交尾じゃ。

オスとメスとが、互いに肉をぶつけあう。これが本物のセックスである。

んおおおお、セックス！ セックス、セックス、セックスう！

われほどの高位悪魔が、人間ごとくと、本気のファックう！

バキバキチンポに何度も中出しされながら、本気の騎乗位腰振り、本気のオマンコお！

魔神のマンコもメスのマンコじゃ。

魔神アトカーシャのメスマンコが、人間のオスチンポで、んんおお、感じ始めたのじゃ。

んくう、感じておる。チンポでマンコが感じておる。

お主のチンポがわれを、このアトカーシャを、女の喜びで泣かせておるぞ。

もっとじゃ、もっと！ もっとわれを気持ちよくさせよ！

ガッツンガッツン、腰打ち付けて、われのメス肉、グッチョリグチヨグチョ、かき混ぜてみせよ！

あつくう、んふ、んお、おっ、おっ、おおお。

んおっ、んおっ、おっ、おおうっ。おおお、おおお、おっ、おっ、おおお。

おおお、おっ、おおおう、んおおう、おおう、んお、おお、おおおう。

んふう、んおお、おおう、おおお、んん、んおおう。おおう、おふう、んおっ、おおっ、んおおうっ。

んおっ、おおっ、おっ、おっ、おおう。おっ、おっ、んおっ、おおうっ。

おっ、おっ、おっ、おっ、おっ、おっ、おっ、おおっ。

おっ、おっ、んおっ、おっ、おっ、んおっ、おっ、んおおうっ。

おっ、おっ、おっ、おっ、オッ、オッ、オッ、オッ。

オッ、オッ、ンオッ、オッ、オッ、オッ、オッ、ンオオオオッ。

ンオオッ、よいぞ。気持ちが、よいぞお。

これならば、われも、われもアクメに到達できそうじゃ。

あっ、あっ、おっ、おっ、んはっ、あはっ、あっはあん。

んふっ、んはっ、んっはあ、アッ、アッ、アッ、アアンッ。

んむう、メスの、メスのアクメがそこまで来ておる。

本気マンコで、メスアクメえ。本気のマンコの、本気の、メス・アクメえっ！

ンオオオオッ、チンポもっ！ チンポもアクメっ！

チンポも射精じゃ！ ザーメン、射精じゃ！

んん、ンオオッ！ ザーメン！ ザーメえンっ！

魔神のマンコに、オスのミルクが、ドバドバ、ビュルビュル、中出し射精っ！

ザー汁、ゴクゴク飲み干すぞ！

われのドスケベオマンコで、オスの種汁、搾り出し、飲み尽くし、タマキン袋の中身を空にしてやるう！

まだまだ、まだまだ、まだ射精できるであろう？

射精しながら、アクメしながら、しかし、腰の動きを止めはせぬ。

ガッツンガッツン、腰振り続け、膣から溢れ出すほどに、もっともっとチンポ汁を吐き出せえっ！

オッ、オッ、ウオオオオッ！ 大量生出しチンポミルクうううっ！

ンオオッ！ 満ちるっ！ われのマンコがっ！ 魔神のメスマンコが、子種で満ちるうっ！

よい！ よいぞ！ 心地よいぞおっ！

お主が何発もチンポザーメンを注いでくれたおかげで、わが子宮も喜んでおる！

たっぷりどっぷり中出しされた、ドロドロの人間子種を迎え入れようと、われの子宮が、ンオッ、ひらいてゆく…！

ソックウッ！ 子宮がっ！ 子宮の入口がっ！

オスのザー汁を味わいたいと、ンンオッ、口を大きくひらいてゆくぞっ！

ンオッ！ オッ、オオオオッ！ 精子っ！ 精子があっ！

われを孕ませようと、んん、ンオッ！ 卵子めがけて、勢いよく飛び込んでまいるっ！

無駄じゃっ！ 無駄無駄っ！ 人間の精子なんぞで、このわれが孕むはずもないっ！

無駄撃ちされたザーメンが、んぐ、しかし、なんとも心地よいっ！

幾万幾億もの精子どもが、われの子宮を泳ぎまわって、ンオオ、快感を増幅させる！

ング、ンオ、オッ、オオオ！ これならば、イケるっ！

子宮を精子で犯されて、われも！ われのマンコも、アクメに達することができるわいっ！

ンオッ！ ンオッ！ オオオウッ！ イクッ！ イクッ！ イッグウッ！

イグイグっ！ イグイグっ！ イグイグ、イッグウウウッ！

この、われがっ！ この魔神アトカーシャがっ！ 人間ごときのチンポで、ンオッ、絶頂するうっ！

高位悪魔の肉マンコがっ！ オスザーメンで、メスアクメえええっ！

マンコ、イクイクッ！ マンコ、イッグウッ！

イグッ！ イグッ！ イグッ！ イグッ！ アクメっ！ アクメじゃっ！ 中出し、アク、んメえっ！

わがオマンコ絶頂姿を、その目にしかと、焼き、付けるがよいっ！

ンンオオオッ！ イッグウッ！ イグイグ、イッグウッ！

ンオッ！ ンオッ！ オッ！ オオオオウッ！ オッ、オッ、オッ、オッホオオオオオン！

イツ、イツ、イツ、イツ、イツ、イツ、グウウウウウウウウウウンッ！

…ンン、ンフウ、んあ、んふう。ああ、んお、んおお。おお、んん、んあ、んふう…。

…んふう、ふう、ふう、ふう、ふう、ふう、ふう、ふう…。

…んん、んふ、んふう。ふう、ふう、ふう、ふう…。

…なかなか、見事であった。

わが肉体を、この魔神のマンコと子宮を、絶頂まで導くことができるのはのう…。

やはり、お主、人間としては特異な存在のようじゃ。

惜しむらくは、その才を肉欲を満たすためだけに行使しておることであるが…。

…まあ、今さら申しても遅いがのう。

…ふう。

…そら、休むのはそのくらいにして、またわれを気持ちよくさせよ。

わが契約者ともなれば、肉体の消耗もすでに回復しておるはず。

金玉の中身も補充されて、もうパンパンになっておるはずじゃ。

チンポも、いつまで萎えさせておくつもりじゃ？

早う勃たせて、ココに、連続中出し射精でドロドロのグチョグチョになったわれのオマンコに、ズッポシ、チンポをハメてみせよ。

こんなものでは、わが昂りを満足させるには程遠い。

お主のくだらぬ望みが、われの肉体に火をつけたのじゃ。

まだまだこれから、幾度も幾度も、このメスの魔神を相手に、セックスしまくり、ハメまくり、なのじゃ。

わが肉体、わが魂を、その人間チンポで満たしてみせよ。

ほおれ、ココじゃ。この穴じゃ。

白濁ザーメン垂れ流しながら、物欲しそうにヒクヒクと震える女の穴じゃ。

われのこの肉の門に、お主の立派にそそり勃った鍵を、奥までブチ込んでみせるがよい。

われのマンコに、んん、チンポを、お主の、チンポを、んん、んお、おっ、おおおおっ！

チンポじゃ、チンポっ。オスの肉マラ、人間チンポおっ！

チンポがズップリ、わがマンコにズップリと！ んおおっ、オチンポおっ！

感じるっ！ 感じるぞっ！

お主がチンポを突き入れるたびに、大きな魔力の交感が起こっておる！

オスとメスとの肉交尾によって、より強力な結びつきが、われとお主との間に交わされようとしておるわい！

ンオオオオッ！ チンポおおおっ！ チンポで、マンコおおおっ！

チンポとマンコで、セックス、セックス、セエ〜ックスっ！

魔神と人間の、ンッホオッ！ 次元を超えた、チンポマンコファックうううっ！

そおら、そらそら！ もっとじゃ、もっと！ チンポでガンガン、ファックせえ〜いっ！

ンオオオオッ！ チンポおおおっ！ オチンポピストンうううっ！

チンポっ！ チンポおっ！ チンポっ！ チンポっ！ オチンポおおおっ！

チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポおっ！

チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポおっ！
チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポっ！ チンポ…。

・チャプター4 「変化 ヘンゲ 〜魔神と変態触手多穴交尾〜」

…魔神と契約し、尋常ならざる生命力を手に入れたとはいえ、夜通し交尾を続けて12日もたつ。
並みの人間ならば、既に命を落としていてもおかしくはないが…。

…長年、抑圧されてきたお主の欲望の、なんと底知れぬこと。
まだまだ飢えは満たされぬと見える。

それにしても、よい目をするようになってきたではないか。
昏く虚ろでありながら、地の底で燃え上がる炎を宿した、その目。
それこそ、わが主にふさわしい。

…ほほう。これはこれは。
そこまで肉体を変化させることができるのはのう…。
もはや人としての原型もとどめぬほどの、おぞましく醜いその姿。

…股間のチンポは上下二本に分裂し、それぞれがこれまでとは比べものにならぬほどに巨大に膨れ上がっておる。
幹にはボコボコとコブが浮かび、鼓動に合わせて赤黒い血管が激しく脈打ち…。
その2本の凶悪な魔チンポで、われのマンコと尻穴の両方を、貫こうと申すか…。

…そして、もはや腕とはいえぬ、その触手。
膨張し伸縮する指の先は…、それもチンポであるな。

指先から伸びる触手のすべてが、ドロドロと汚らしい粘液を吐き出すチンポと化しておるわ。

…なんと禍々しい姿か。それこそまさに女を犯すための姿。

お主はもはや、交尾するためだけに存在する淫獣よ。

…んっふふふふふふ。

これだから、人間とはおもしろい。

欲望を満たすためならば、大切なものさえ平気で捨て去る。

お主がそこまでわれとの交尾に魂と命を燃やして挑むのであれば、われも応えぬわけにはいかぬのう。

…では、見ておれ。

左右の乳房の先の蕾を、んん、このように、指で、んく、押し込んで、んふう。

グリグリと、んおお、体内に向けて、魔力を、放つのじゃ。

んん、んく、んふ、んは、ぐう、んおおおお。

んほお、開く、開くぞ。われの、乳房に、扉が開くっ。

んっくう、どうじゃ？ われの乳首がみるみる陥没していくであろう？

しかし、まだまだこれからじゃ。

…ほおれ、両の乳房に、両の指先が、んっふう、ズブズブと、んおお、呑み、込まれて、いくぞお。

二本、三本と、んほお、指が埋もれ、内側の肉を、あっふう、かき混ぜるっ。

グッチョグッチョと卑猥な音が聞こえるであろう？

われの乳房が、今まさに、変貌を遂げようとしておるのじゃ。

んっくう、んふ、んん、んは、あふ、あっはあああ。

グチュグチュと、われの乳に、穴をつ。チンポのための、乳穴をお。

お主のチンポ触手を呑み込む、両の乳房に、チンポ穴あああつ。

んんっく、んっは、おお、んおおおお。

おお、んん、んくううう。

んんん、…ほれ。これで、お主の子種を搾り取る穴がもうふたつ、出来上がったぞ。

マンコと尻穴、そして、この乳マンコ。

これで四本のチンポは相手できるであろう？

魔神の尾も、枝分かれさせてやるとしよう。

あぶれた触手チンポは、無数の尻尾マンコがお相手じゃ。

魔の物となつてまで、われを欲するお主に報いるためじゃ。

われのすべての穴で、お主の底なしの欲望を受け止めよう。

…では、始めよう。十三番目の夜にふさわしいドロドロに爛れきった変態交尾を繰り広げようではないか。

準備は…、ふっ、聞くまでもなかったな。

…さあ、参るがよい。存分にわれの肉体を貪るのじゃ。

このいつとき、肉の快楽に溺れてみるのも一興か…。

全身性器と化した肉体の、その感度を極限まで高め、われもお主とともに限界アクメに挑むとしよう。

穴という穴、チンポというチンポで繰り広げる、魔のド変態ファックである。

ヒトを超えたお主ならば、われをそこへ連れて行ってくれるはずであろう？

んん、んふう。われの肉体もすでにお主を受け入れる準備ができておる。

さて、今宵はどこから責めてくれるのじゃ？

…ふふん。やはりこの乳か。

両の乳房に、んん、触手を巻きつけ、絞り上げる…。

んん、んくう、そのような姿になってもなお、オナゴの乳が恋しいか。

んむ、んは、んふう。禍々しき触手で、なんとも優しい愛撫をするのう…。

あっふう、んふう、んん、んあ、あはあ。

先からトロトロと垂れ流された先走りのチンポ粘液が、んっくう、われの乳に塗りたくられて…。

んん、んは、カウパー粘液の触れた部分が、んん、熱く火照ってきおったわい。

んあ、あふ、あうん。

体液を媚薬に変質させるとは、なかなか芸が細かいではないか。

んむう、悪くない。悪くないぞ。

触手チンポの媚薬カウパーで、んん、われの乳が、あふう、発情させられる。

乳が、んんっふう、乳があ。乳の、マンコが、んは、ジンジンと、塞いで欲しいと泣き始めたぞ。

んおお、参れ。参るがよい。

われの乳の穴の中に、お主の触手チンポを、ズボッとズブっと、突き刺してみよ。

われの乳穴も、タラタラと愛液に似た乳汁を分泌し、男の肉を喰らいたがっておるのじゃ。

んん、んあっ、あふっ、んふっ、あっ、あっ、あっはあん。

乳にズブっと、触手チンポ、キタぞおっ。

んはっ、あふっ、んふっ、んふうううっ。乳の両穴、乳マンコおっ。

あっくう、んひいっ、乳に空いたチンポ穴あっ、オス肉触手で犯されておるわい！

あっふう、んふう、んはっ、あっふっ、んっひいん。

あっ、あっ、あっ、ああん。んはっ、あはっ、あっはあん。

乳の肉穴が、んひっ、あひっ、んっひい、チンポ触手でズボズボ、ズボズボおっ。

オッパイマンコで、交尾をしておるうっ。

これは、想定以上の快感じゃ。

パイ穴マンコは、魔神をも狂わせるドスケベ性器であつたとみえる。

お、おっ、んお、おおっ。おっ、おっ、んお、おおおおっ。

んむう、これは、早々に気をやってしまいそうじゃ。

んほっ！ おおっ、おっ、んん、おおおうっ！

チンポ触手が、んおおおっ、射精っ！ 触手ザーメン、ドブリと射精いつ！

おおお、んお、んくう！ 乳マンコにザー汁、注がれて、んおおっ、乳で、乳で、イッてしまうっ！

乳穴絶頂っ！ オッパイマンコでチンポアクメえっ！

イックうっ！ イクイクっ！ パイマン、イックうううっ！

精液中出し乳マンコで、われも、われも、絶頂するぞおっ！

んおっ！ おおおっ！ イッグ、イッグ、イイッグウウウンッ！

んぐ、ンホッ！ オッホオオオオオッ！

オッパイアクメを決めている間に、おっほおっ！ マンコと尻穴、ぶっといチンポで串刺しじゃとおおおっ？！

われの二つ穴に、二本のチンポおおおっ！ 触手なんぞとは比べものにならぬ、本物のチンポじゃあああっ！

二本の本物チンポでっ！　ンッホォッ！　女陰と肛門、両の穴があっ！　ズッポシ奥までハメられておるうっ！

これは、こいつは、なんという快感っ！

マンコも、アヌスも、ンオオォッ、素晴らしいっ。素晴らしいチンポ快感でああああるっ！

ンン、イッヒィィンッ！　なんとも見事な腰使いじゃっ。見事なオチンポピストンじゃっ！

ガッツンガッツンガッツンと、女を性欲処理用の穴としか思っておらぬ、情け容赦のない見事な腰振りっ！

ンッホオオォッ、それじゃ！　その調子じゃっ！

外道に堕ちたモノにふさわしい、エゲツないファック！

乳穴、ケツ穴、マンコ穴あっ！　われの穴が、お主のチンポに侵略されておるうっ！

ンンッホ、オッホォッ！　んん、んく、余った触手は、われの尻尾が咥えてやるぞ。

枝分かれした肉穴触手で、お主のチンポ触手はすべて食らってやるわい。

幾本もの触手同士で交尾するのじゃっ！

すべてのチンポとすべてのマンコで、ンッホォッ、交尾じゃ！　セックスじゃっ！

ンオッ、ンホッ、オッ、オッ、ンン、ンオッ、オオッホ！

んんっくう、あちらこちらで、ジュポジュポ、ヌポヌポっ、卑猥で淫らな汁音が響いておるわい。

これこそ、魔神と淫獣の、ド変態触手交尾。ヒトの身では到底なし得ぬ、肉欲の宴じゃ。

今のわが肉体は、チンポを射精に導くための、ドスケベ全身マンコである。

この魔神アトカーシャ。今この時だけは、人間チンポのハメコキ穴となろうぞ。

ンオオオオウッ！ そうじゃ！ お主も、われに応えてみせよっ！

無慈悲で豪然たる、凶悪オチンポハメハメでっ！ われのすべてのマンコ穴を満足させてみせるがよい！

んん、ンオッ、オッ、オッ、オオオッ、ンオオッ、オホオッ！

オオオウ、ンオ、オウ、ンオ、オオ、オホオウッ！

マンビラ、ゴシゴシ、チンポのコブがコスリあげるうっ！

抜き差しするたび、ケツ穴にもボコボコと引っかかって、ンン、イッヒィィィッ！

極太人外チンポ肉っ！ 魔神のマンコすら、ここまで泣かせてくれるとはのうっ！

よいぞ、よいぞおっ！ フタ穴セックス、気ン持ち、よいゾオオオッ！

ンッホオッ！ もっとじゃ！ もっともっと強烈なピストンをっ！

われの肉穴は、あらゆる責めを受け止めてみせる。

どれほどすさまじいチンポの突き込みでも、われの穴を壊すことはあたわぬのじゃ。

であるから、そおれ、遠慮はいらぬ！

全身全霊をかけて、わがメス穴をぶち抜くのじゃ！

ング、ンン、ンンオッホオオオッ！ そうじゃ、参れっ！ 二本のチンポで、参るのじゃあああっ！

オッ、オッ、オッホオオオッ！　ンンッホ、オオオウ、オオッ、オオッ、オホホオオオウッ！

マンコとケツ穴、淫獣チンポで、ズコズコバコバコおっ！

ズッコンバッコン、二つの穴で、二本のチンポが暴れておるうっ！

ズコズコ、バコバコ、ダブルペネトレーションっ！

ズッコンバッコン、ズッコンバッコン、前と後ろのフタ穴同時ファックうっ！

ンンイッヒィィンッ！　乳もっ！　オッパイもおっ！　オッパイマンコも、触手がエグるうっ！

ドクドク中出し乳マンコおっ！　入れ替わり立ち替わり、何本もの触手チンポが、ンンッホ、ザー汁排泄キメてくるっ！

触手マンコの交尾でも、ンッヒィ、触手チンポが射精しまくりっ！

肉穴触手に種付けしたり、ンッハアッ、われの全身にぶっかけしたりっ！

ンン、ンホッ、人間精子がわが身を汚すっ！　ぶっかけ精子、ンンオオ、感じるぞおっ！

もっと出せ出せ、生臭ザーメン、ドブプリ出せえっ！

ビュルビュル、ドクドク、発射、発射、発射あっ！

ドブッ！　ドブッ！　ドブ〜ッ！　ビュクビュクッ！　ドビュルルッ！　ブピュブピュブピュ〜っ！

無限に湧き出るチンポ汁うっ！　オチンポ子種の噴水じゃ！

全身ザーメンぶっかけで、ンンオッホオッ！　われも、イックウッ！

ぶっかけスペルマ、全身種付っ！ イグッ、イグッ、イググイグウウウッ！

ムフウ、ンムフウ、ンクウ、ンオ、オオ、ンム、オオ、ンオオウ。

オッ、オッ、オオオウ、ンオッ、オオオッ、ンホオウッ。

…ンムムム、あむん、んん、んふ、んむ、あむ、んふう。

んむう、んふ、んん、ここにきて、唇を求めるとはのう。

ああむ、んむ、んちゅ、むちゅう。んふ、あむ、んちゅう。

…貪るだけのセックスだけでは飽き足らず、んちゅ、口付けしながらの交尾も望むか。

んちゅう、むちゅ、んちゅ、んぶ、えろ、んへえろ。

あむ、ぶちゅ、んちゅう、ちゅぶ、んぶ、えろん、んえろ、えろえろ。

はあむ、んえあむ、むっちゅう、んちゅう。ちゅ、ちゅるる、ぶっちゅう、ぶちゅる。

んふう、んちゅ、ちゅる、じゅる、んぶ、ぶじゅる、ずちゅ、ちゅる、むっちゅう。

んええろ、えろん、んちゅるん、ぶっちゅう。えへえろ、んへろ、あむん、んちゅう。

んん、んちゅ、ンフウ、ああむ、ンム、えへえろ。

ええろ、んむ、ぶちゅるん、ンフウ、ンフウ、むっちゅうん。

ンアア、んぶ、ンオ、んっちゅう、ンフ、ンヘエロン。

ンフウ、ンフウ、ぶっちゅう、んちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅる、ンハ、ハフウウウン。
んん、ンフ、んちゅ、ちゅぶ、んぶっ！　ンブウウウッ！

ンボッ、ンブッ、ンブバッ！　ンフウッ、ンブ、ンブブブウッ！
ンフウ、ンブブウ、ンオ、ンム、ムブブ！　ンモウ、ンブウ、ブジュズズ、ンブズ、ンフウ！

ブジュウッ、ンブジュウッ、ジュルリ、ブジュルル、ブバ、ブズ、ンブブッ！
ブジュルル、ンブウッ！　ジュルエロ、ンブブッ、ブバ、ブズ、ブバボッ！
ブジュッ、ブジュルル、ンベェロ、ベロオン、ブベェロ、ジュルレロ、ブジュズズ、ズリュレロオ！

「んむう、舌をもチンポと化すか…。お主も面白いことを考えるのう」
「ベロチンポがわれの口内を蹂躪しておるわい。しかし、われもやられてばかりではおらぬぞ」

ブバッ、ブボボッ、ンブウ、ンフ、ンボッ、ブバ、ンブ、ブジュルン！
ジュブ、ジュロ、ズロロ、エヘェロ、ベェロン！　ブベロ、ンベェロ、ンズジュル、ブベロ！
ンッブブ、ズヂュル、ジュルルン、ヂュルレロ、ンブバボ、ンブブッ！

「んふう、ベロチンポからも、んん、ドロドロの体液が漏れてきおった。くふう、これも、強力な媚薬の、ようじゃのう」
「口の中だけでなく、んっくう、頭の中まで、チンポでかき混ぜられておるようじゃわい」

ンブッ、ジュブブ、ブジュベロ、ンベロン、ブボッ、ンブバボッ、ンベェロ、ジュルエロオン！
ブチュルル、ブジュルン、ンブ、ンボ、ブバボッ、ズヂュルル、ヂュルレロ、レルレル、ンブボォッ！

ンブブブッ！　ンオ、オボオオオッ！

アブッ、ンブッ、ンブブッ！　ンフウウウッ、ンブ、ンブブオオオオッ！

ンッヘエエエエ！　アヘエエエエ！　ンン、ンフッ、アッフウウウンッ！

フホッ！　オホッ！　ンン、ンホッ、オッホホホオオオンッ！

ンッフフフ、フハハハ、フハハハハアッ！

お主なんぞに、われをここまで快楽に墮とすことができるとはのう！

ンフッ、ンホッ、ホッ、ホッ、ンフッ、フホッ、ンホオウッ！　ンン、ンックウウウッ！

全身が燃えるように熱いつ！　お主とのファックに、われの身体が歓喜しておるぞっ！

ウッホオオオウッ！　そうじゃ！　ファックせよ！　われの穴を責め尽くすのじゃ！

ンンッホッ！　オッホオウッ！　ンホッ、オホッ、オッホッホオオオンッ！

オッ、オッ、オオオオオオッ！　アオオウッ！　アッ、アオオウッ！

ンオオオ、オッ、オホオウ！　オオオウ、オ、オオオウ！

ンオオウ、オオウ、オオウ、オオウ！　オッ、オッ、オオオウ！　オッ、オオオウ！

オオオウ、オ、オオオウ！　オオ、ンオオ、オッ、オッ、オッ、オッホオウッ！

オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！ オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！
オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！ オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！
オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！ オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！

オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！
オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ、オッ！

オッ、オッ、オッ、オッ オオウッ！
オッ、オッ、オッ オオウッ！ オッ、オッ オオウッ！

ング、オッホオウッ！ これはすさまじいっ！ すさまじいまでの快樂っ！

これはもはや、ただの交尾はないぞっ！

われとお主のこの淫猥な交尾は、ンホォ、強大無比な淫欲を周囲に放出する、一種の魔術儀式となって、おるようじゃ。

お主のちっぽけな欲望から、これほどまでの、強力な儀式が生み出されるとはのう、ンイッヒイン！

やはり、お主、おもしろい！ たいそう愉快で、ンンッホオウッ、最高のセックスモンスターじゃあ！

ンオッホオオウッ！ チンポがっ！ すべての、オチンポがあっ！

股間の二本のオチンポと、うごめくすべての触手チンポがあっ！

われの穴でっ！ 全身のマンコ穴の中でえっ！ ングオッホオンッ！

ビクンビクンと痙攣し、ンホオッ！ 大きく、ンング、膨れ上がったあっ！

ンンッホオオオオンッ！ チチっ！ チチっ！ 乳マンコおおおっ！

ズコズコ、オッパイマンコ穴あっ！ 両の乳房のチンポ穴あああっ！

オオオオッ！ イグイグッ！ オッパイ、イググウウウッ！

ムホッ！ ムホッ！ ムッホオオオッ！ 触手チンポが、また、ぶっかけえええっ！

無数のマラ触手から、ビュービュー、射精っ！ チンポ汁うううっ！

ンッフウッ！ ンッホオッ！ オオオッ！ オッホオオオオンッ！

マンコおおおっ！ マンコおおおっ！ オマンコおおおおおっ！

マンコにチンポおっ！ ごんぶとデカチンポおおおっ！

魔神のメスマンコがあっ！ かつての童貞オスチンポに、んっほおっ！ イカされるうううんっ！

アヌスもっ、ケツもっ、ケツマンコおおおっ！

尻穴チンポも、ズッコズコオッ！ ズボズボ、ヌコヌコ、アナルチンポおおおっ！

ケツハメっ！ ケツハメっ！ ケツハメえええっ！

ケツハメチンポのケツ穴ほじりで、ングウッ！ ケツがイググうううっ！

われの穴にっ！ すべての穴にっ！ ンッホオオオッ！ チンポがっ！ オチンポがあああっ！

パワフルで、ダイナミックな、ンオッ！ ハメチンポピストへんっ！
腹を突き破らんと、ングオオッ！ 荒々しいファックっ！

オッ オッ オッ オオオウッ！ われこそは魔神アトカーシャ！
われは魔神っ！ …否っ！ 今のわれは、オマンコであるっ！
人間チンポが大好物の、ドスケベ淫乱マンコなのであへるっ！

ンオッ オッ！ オッ、オッ オッ オオオウッ！
参れっ！ 参れえっ！ 撃て、撃て、撃てえええええいつ！

チンポで絶頂っ！ オチンポザーメン、大量射精いっ！
ドブドブドバドバ、一斉発射あっ！ お精子っ！ ザーメンっ！ チンポミルクうううっ！

全身、ザーメンぶっかけるっ！ チンポ汁っ、チンポ汁っ、チンポ汁うううっ！
乳にっ！ ケツにっ！ オマンコにっ！ すべての穴に、精子をブチ込むうううっ！

ザーメン中出し、乳アクメえええっ！
ライトオッパイも、レフトオッパイも、等しく絶頂っ！ 左右のパイマンコで、同時にオーガズムっ！

オッ ッ、オッ ッ、オッ オッ、オッ ッ、オッ オッ オオオウッ！
ケツイキっ！ ケツイキっ！ ケツハメ、イググウウウウンッ！
ケツにチンポで、ケツチンポおおっ！ アナルチンポ絶頂で、ンオッホオッ！ イッ、イッ、イグググウウウウンッ！

スバラシイっ！ お主のチンポの総攻撃っ！ スんバラシイぞおっ！

ンオ` オ` オオオッ！ マンコも絶頂じゃっ！ マンコがっ、マンコもっ、メスアクメえええっ！
魔神の淫乱メス子宮っ！ オチンポ子種をゴクゴク飲み干すっ！

ンオ` ッホッ！ ドスケベ孕ませアクメえっ！
すべてのアナを、特濃精子で孕まされてえっ！ ンッホオウッ！ メスイキっ！ メスイキしまくりっ！

われの、われが、われの存在そのものが、ムッホホホオオオウッ！
触手ファックでっ！ ニプルファックでっ！ アナルファックでっ！ マンコファックでえええっ！
アクメるっ！ アクメってしまうううっ！ 全身受精で、限界アクメじゃあああっ！

われは魔神で、マンコ穴あっ！ ドエロ魔神のアトカーシャっ！
好き者マンコのアクメ魔神っ！ オチンポ大好きドスケベ悪魔あああっ！

われはマンコで、お主はチンポおっ！
マンコとチンポで、ファック！ ファック！ ファ〜ック！

オ` ッ、オ` ッ、オ` ッホオオウ！ オ` ッ、オ` ッホオオオオオウッ！
イグイグイグイグ、イグイグイグイグ、イグイグイグイグ、イグイグ、イググうううんっ！

ンオ` オ` オオオッ！ 果てしないっ！ 果てしないっ！
果てしのない絶頂っ！ 終わりなきアクメえええっ！
われのすべてが、オ` オ` ウッ、オルガで、満ちるうううっ！

イッグう、イグイグイグ、イッグ、イグうううっ！
ンオ` オ` オ` オ` ッ！ イグイグっ！ イッググ、イッグウウウウンッ！
ンオ` ッ！ ンオ` ッ！ ンオ` ッ！ ンオ` ッ！ ングオッホオオオオオオオオオウンッ！

…ンオオオオ、これは、この力は。
オーガズムの果てに、このような光景が待っておったとは…。
ンフウ、ンオ、オッ、オオオウ、ンク、ンオ、オッホオウ、オッ、オッ、オオオオオオオ…。

・ Chapter5 「墮落 ダラク」

…ほれ、周りを見ているがよい。あたりかまわず人間どもがサカっておるわい。
もはや、まぐわうことしか考えられぬように、チンポとマンコで求め合っておるのう。

どうやら、お主との交尾で生み出された魔力によって、周辺地域に淫らな気をばらまいてしまったようじゃ。
お主の童貞を奪うだけで契約は終わりかと思っておったが、結果として人間界に大きな混乱をもたらすことになったのう。

せっかくじゃ。
われはこれを足がかりに、この世界を淫欲に染め上げるつもりであるが…。

…お主も、われと共に参るがよい。

この世界ならば、お主も好き放題に女を犯すことが出来るであろう。
チンポの化け物のようなその姿も、正気を失った女どもは気にも止めぬはず。

それに、われもお主のことを気に入りはじめたところじゃ。
相性もよいようであるし、またファックにも付き合ってやろう。
ゆく先々でお主と交尾しまくることで、この卑猥な光景を広げることができるはずじゃ。

どんなに高潔な人間も、この肉の誘惑には抗えまい。
われとお主で人間界を、チンポとマンコの衝動のみが支配する素晴らしい世界に作り変えようぞ。

…ううむ、それを想像するだけで、われもまた昂ってしまうわい。

…では、参ろう。この世界のすべてを、淫獣のすみかに、変えるために。

～終わり～